

# 平成30年第1回中津川市教育委員会議事録（要旨）

日 時 平成30年1月23日（火） 午後1時30分～

場 所 にぎわいプラザ 4-1 会議室

出席委員 教育長 本多 弘尚  
委 員 田島 雅子 小栗 仁志 林 由美 三尾 和樹

事務職員 早川事務局長・大巾文化スポーツ部長  
小木曾教育次長兼学校教育課長・末木事務局次長兼教育企画課長  
西尾教育研修所長・丹羽幼児教育課長・足立子育て政策室長  
山下発達支援センター所長・林阿木高等学校事務長  
吉村施設計画推進室長・二村図書館長兼蛭川済美図書館長  
川合文化振興課長兼市史編さん室長・川上鉱物博物館長  
糸魚川生涯学習スポーツ課長・青木中央公民館長

会議日程 1 開 会  
2 前回議事録の承認  
3 教育長報告  
4 議 事  
5 閉 会

番 号	議 題	結 果
議第1号	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について	承認
議第2号	中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について	承認
議第3号	平成30年度中津川市教育委員会主要事業について	承認

■教育長 それではただ今から平成30年第1回中津川市教育委員会を開催します。

日程第2、前回議事録の承認につきましては回議とさせていただきます。よろしくをお願いします。

日程第3、教育長報告を行います。お手元に報告概要を資料として配付させていただきました。前回12月20日の教育委員会以降の出席行事等を中心に報告いたします。

12月22日は議会最終日でした。26日は加子母の教育協議会の方々がおみえになり、現在の加子母教育を紹介してくださるとともに、将来にわたって地域の教育を続けていく方法を研究していきたいということで懇談を持ちました。28日は仕事納め式、年が変わって1月4日は仕事始め式があり、市長さんから、「リニアが来ることは市にとってのアドバンテージだが、そのことにあぐらをかかないで努力、工夫をしてほしい」とごあいさつがありました。5日は消防出初式、7日には成人式がありました。今年度の中津川市の新成人は858名、昨年より6名少ない人数だそうです。代表者の誓いの言葉は、中津川に貢献したい、ふるさとを大切にしたいといった内容が多く、頼もしく感じました。

12日は消防職員の意見発表会、13日ははがきコンクールの表彰式に参加しました。17日は青年会議所の新年会があり、次期会長さんが就任あいさつで抱負を述べられました。18日は校長会、22日から幼稚園の教育長訪問が始まり、初回は西幼稚園へ訪問しました。

今後の主な予定です。

24日にB&Gサミットに参加します。26日に坂下高校の活力ある高校づくり推進協議会に参加します。また29日から残りの4つの市立幼稚園への訪問を予定しています。

私からは以上です。

次に、事務局及び文化スポーツ部からそれぞれ報告をします。

最初に早川事務局長、報告をお願いします。

■事務局長 前回以降の主な行事について報告します。

12月22日は市議会本会議の最終日で、12月議会が無事に終了しました。28日には、仕事納め式がありました。年末年始は大きな事件事故などはなく穏やかに新年を迎えることができました。1月4日に仕事始め式と部長会がありました。部長会では、4日発売の田舎暮らしの本で住みたい田舎ランキングが発表されており、中津川市が「住みたい田舎総合20位」また「子育て世代が住みたい田舎22位」になったとの報告がありました。これはアンケートに答えた自治体671のうちのランキングで、移住定住や子育て支援の施策の実施状況や施設の充実などで点数付けを

した結果、上位に入ったというものです。これからも子育て支援策に力を入れていきたいと思っています。

5日は消防出初式に出席をしました。8日は成人式に出席しました。18日、校長会が開かれました。22日から各公立幼稚園の教育長訪問が始まり、西幼稚園を訪問しました。

今後の予定ですが、25日に教頭会、26日に坂本こども園の設計業者選定委員会が予定されており、一次審査を行う予定です。また、部長会が予定されています。29日は中津川幼稚園、30日は神坂幼稚園に訪問予定です。2月6日は山口幼稚園を訪問予定です。また、夜、教育委員会事務事業点検評価委員会を開催予定です。9日は坂本幼稚園を訪問予定です。13日は坂本こども園の設計業者選定委員会で2次審査を予定しています。

以上です。

■教育長 次に、大巾文化スポーツ部長、報告をお願いします。

■文化スポーツ部長 それでは文化スポーツ部にかかわる主な行事や事業についてご報告します。

12月26日、熊谷守一大賞展の審査委員である佐々木豊先生の個展が名古屋であり、前回大賞展のお礼と今後の協力をお願いに伺いました。佐々木先生は、付知にゆかりがあるフォーカスの表紙を描かれた三尾公三先生と師弟関係にあり、現代日本の代表的な画家です。

1月1日、新春マラソン大会が蛭川を初め各地区で開催されました。今年は天候が穏やかですがすがしい新年となり、参加者が多くありました。1月5日、中津川市消防出初式が開催され、出席しました。1月7日、成人式を東美濃ふれあいセンターアリーナで開催しました。皆様方にはご出席いただき誠にありがとうございました。新成人858名のうち716名が参加、出席率は約83%でした。今年のテーマを「翔 はばたく-未来に向かって」と実行委員会で決定し、新成人が未来への夢と希望を紅白の紙飛行機に乗せて飛ばし、門出を祝いました。

1月14日、第7回はがきコンクール表彰式が行われました。応募作品は1976通で、前回よりもわずかではありますが増加しております。入賞作品を含め、応募作品は1月20日から2月8日まで各地域で展示しますのでぜひご覧ください。1月19日、東京オリンピック・パラリンピック競技大会用製品見本披露式が市長、県議会議員出席のもと、東美濃ふれあいセンターアリーナで開催されました。これは、県産材の事業を活用して、中津川市のケーエム産業が、空手道や柔道等の競技用マットの土台に県産ひのき材を活用した製品見本を試作し披露したものです。

今後の主な予定です。1月24日、第10回B&G全国サミットが全国の首長、教

育長が参加され、東京で開催されます。今回のサミットにおいて、中津川市長がサミット副会長に選任されます。1月26日、文化財防火デーに伴う消防署の火災防御訓練が苗木城跡で行われます。2月18日、中津川市郷土かるた競技大会が健康福祉会館で開催されます。

以上です。

■教育長 ただいまの報告につきまして何かご質問がありましたらお願いします。  
三尾委員。

■三尾委員 成人式と文化部長のはがきコンクールの日にちが7と13ではないかなと思います。

■教育長 早川事務局長。

■事務局長 成人式は7日でした。失礼しました。

■教育長 ほかにございますか。

ないようですので、日程第4、議事に入ります。

日程第1議第1号「中津川市立小中学校管理規則の一部改正について」説明をお願いします。小木曾教育次長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

ご異議がなければ、議第1号については承認ということよろしいでしょうか。

それでは、議第1号「中津川市立小中学校管理規則の一部改正について」は提案どおり承認とします。

日程第2議第2号「中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について」説明をお願いします。丹羽幼児教育課長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 意見です。小中学校、幼稚園のことです。働き方改革というのがかなり叫ばれ始めてきました。今まで都合が悪くてもそのままやっていたものを見直し始めてきて、見直して変えていくというのが正しいことという流れが起きてきたと

ということですね。これからもいろいろと、今まで我慢していたものを変えていかなければならなくなると思います。もちろんよく吟味して事に当たっておられると思いますが、その上にも、一過性だけではなく、親や社会への影響をしっかりと見極めながら、より良い方向へ、働きやすい方向、豊かな暮らしができる方向へと変えていっていただけると有り難いと思います。

■教育長 ありがとうございます。ほかによろしいですか。なければ議第 2 号については承認ということによろしいでしょうか。

議第 2 号「中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について」は原案どおり承認とします。

日程第 3 議第 3 号「平成 30 年度中津川市教育委員会主要事業について」説明をお願いします。末木事務局次長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 これまでの説明について何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。小栗委員。

■小栗委員 質問です。教育企画課の基本施策 1 (3) 小学校・中学校トイレの洋式化の推進ですが、これは継続ということで、完了予定はいつ頃ですか。

■教育長 末木事務局次長。

■事務局次長 トイレの改修については予算もかかることで、30 年度は予算要望をいくつかの学校でしましたが、なかなか予算もついてきません。予定では川上小学校があります。そうしたことから、すべての学校の洋式化を進めるということではなくて、ある程度平均以下の部分、和式率が高い学校を行うことを考えています。具体的に年度別の計画ができていないわけではありませんが、平成 30 年代の中ぐらにはやっていきたいと考えています。

■教育長 そのほかございますか。

田島委員。

■田島委員 2 ページ、基本施策 3 (1) 教育長への直行便は前から開設されているのですが、どれぐらい来るのですか。

■教育長 末木事務局次長。

■事務局次長 私がこの 1 年間担当している中では、はっきりした数字ではないですが、4 月以降で 2、3 件です。

■教育長 田島委員。

■田島委員 ありがとうございます。もう一つ伺います。田瀬小学校と下野小学校

の合併、統合ですが、壊してしまうのか、跡地をまた田瀬保育園のような利用をしていくのか。同時にこういうのは進行していくものですか。次の使い方をどうするか、同時に協議していくのですか。

■教育長 吉村施設計画推進室長。

■施設計画推進室長 田瀬小学校の跡地についてはまだ具体的には何も決まっていません。ある程度地域で統合することが認識されてこないとなかなかそちらに踏み込めない面があります。来年度具体的に地元の区長や地元の方々とお話ししながら、いい方向性が見いだせればと考えています。

■田島委員 田瀬に統合するのか下野に統合するのかはもう分かっていますか。

■教育長 吉村施設計画推進室長。

■施設計画推進室長 下野保育園と同じように、田瀬小学校を閉校して下野小学校に移る形になります。

■教育長 田島委員。

■田島委員 下野の風景が本当にきれいで、学校に登っていくととてもいい風景で、また降りてくると茶畑が両方にあって、本当に心癒される風景ですので、下野側に統合するのは非常に有り難いと思いました。ありがとうございます。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

小栗委員。

■小栗委員 教育企画課の基本施策 1 (2) 育英事業で、滞納者の件ですが、かねてから滞納者をどう取り扱っていくかが、今後も含めて問題になると思います。特にこうしていきたいという流れのようなものはありますか。一つは弁護士に委託してということだと思えますが。何か基準を設けてとかがあればお聞きしたい。

■教育長 末木事務局次長。

■事務局次長 弁護士への委託は 29 年度からモデル的に始めたところですが。これについては、滞納金額が大きい方、またいくらかは返済をいただいているがここ数年来滞っている方を中心にやっていきたい。まずは弁護士から支払いを促すような文書を差し上げる。それでも音沙汰のない方については裁判所に申し立てをして、裁判所からそうした文書を出していただく。そういうことによって、これについては私債権で 10 年の時効もあるので、裁判所からそうした文書を出すことによって時効も停止するという話も聞いていますので、そういう形でやっていきたいと思えます。

それから、この育英奨学金については、借りている本人のほかに保証人が 2 人います。2 人とも家族ではだめということで、大半は 1 人が親で、もう 1 人は親戚なり何らかのつながりのある方だと思えますが、これまではご本人あるいは家の保証

人の方をお願いしていましたが、どうしてもそこで解決が見いだせない場合は、連帯保証人の方にも返済について話をしていかなければならないと思います。現在はなかなかそこまではいっていない状況です。

■教育長 林委員。

■林委員 (9) (10) についてですが、普通の教室用のパソコンは (9) で、それをウィンドウズ 7 からウィンドウズ 10 に替えるというところで、(10) はパソコン教室にあるものをバージョンアップするということだと思います。パソコン教室というのは、そういう教室があってみんながそこに行って子どもが使い方を勉強するということですか。場所ですか。

■教育長 末木事務局次長。

■事務局次長 普通教室は原則教室に 1 台配備して授業の中で先生がそれを使って行う。パソコン教室は、専用の教室の中に児童生徒一人一人が全員が使えるパソコンを置いています。

■林委員 タブレット型というところですが、多分、それぞれの家でも、昔はパソコンは高級品で家の大事な場所に置いてあって子どもは触っちゃだめというものだったのが、徐々にみんなが手に入れて 1 人 1 台のようなことになってきているので、タブレットを子どもに使えるような、タブレットを渡せるようなものにしたらどうでしょうか。経費が両方かかるので、子どもたちにも使えるようなものを、パソコン教室ではなく、授業の中でも使っていく、どんどんスピードアップしているし、小さな子が、教えてなくても使えるので、経費の面でも早くそこに行っちゃった方がいいのかなという気もします。

■教育長 末木事務局次長。

■事務局次長 文科省からは児童 3.6 人に 1 台ぐらいの目標値が示されています。現在中津川市はそこまで到達していません。お金との絡みもあるので、目標は目標としてそちらの方向には向いていきたいと思います。更新するパソコンは、パソコン教室もタブレット型を予定しています。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 質問です。パソコンのところで、国からも奨励されている部分もあると思うのですが、これだけのものを新しいものにしようとする、ざっと見積もっていくらぐらいになるか分かりますか。

それと、市の予算で全部やらないといけないのでしょうか。国からの奨励でも。

■教育長 末木事務局次長。

■事務局次長 普通教室用のパソコンの更新については、手元に細かい数字は持っていませんが、合わせて 90 台で 2 千万円ほどの予算を予定していたと思います。

これについては、購入ではなくリース契約で分割的な支払いでやっていくということで今やっています。財源は、補助金は現在は出ておりません。もしかしたら地方交付税のような形で算入が含まれているのかもしれませんが、基本的には一般財源です。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

ないようでしたら次に移ります。学校教育課、教育研修所の分です。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ご質問等ありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 学校教育課の(1)学校図書館の図書整備ですが、学校図書館以外に中津川市には2つ図書館があります。以前もお話ししたと思うんですが、学校図書館と市の図書館に隔たりがあり、市の図書館から見ると学校図書館になかなか入っていけないということを以前は聞いておりました。学校図書館の方が市の図書館をどういう使い方をするのか、市の図書館を使うことの指導のようなものはありますか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 10年位前はほとんどかかわりがないという状況があったと思います。近年は市の図書館や蛭川の図書館、蛭川の図書館は地域に密着していますのでずいぶん相互に子どもたちも行きますし、かかわり合いがあるのですが、市の図書館は、各学校からのニーズに応じてまとめて学校に貸し出しということも現在行われているようです。ですので、相互というか、学校のニーズに市の図書館が応えようという形で、そういうサービスをしていただいているおかげで、学校の学習に合ったものをチョイスしていただけて届けてくださったりといった連携が現在図られています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 確かに学校を訪問すると中津川図書館印を押したものがたくさん並んでいてそれを授業に使っているというところが見受けられるんですが、噂で聞いたところでは、中津川の図書館に一度も来たことがない先生、校長先生もおられるということです。できるだけ周知していただいて上手に図書館を使っただけになるとおいしい教育の向上になると思いますのでよろしくをお願いします。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

林委員。

■林委員 学校教育課で、市費で臨時職員をとというのが県で 2 番目だということで、どの項目もとても大事なところだと思うんですが、これだけの人数、とても大勢を採用して、それぞれのところで、こういう方たちをお願いしてよかったとかいうような手応えはありますか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 市費の職員は、教育長訪問の折に学校教育課の職員が直接面談して、どのような働きをし、どのような苦労がありということを本人からも聞いております。それから、逆に校長にも個々の職員の様子を聴き取りながら、文書での評価ではありませんが、次年度の任用も含めた形での職員の良さや働きについてのデータを学校教育課にいただいています。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

田島委員。

■田島委員 複式学級の見学に行ったときに、「複式ではないのですよね、先生が 2 人おられるじゃないですか」と、そんなことをつぶやいておられる見学者の方がみえました。これは、中津川市が自費でお金を払って、複式学級の先生だけではなく補助の先生がいて、本当に手厚く成り立っているというのがよく分かりました。よその複式学級だと、本当に 1 人でこちらへ行き、後ろへ行ってという形でやっておみえだと思います。よくこれだけ予算を取って持続していただいています。有り難いことです。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

田島委員。

■田島委員 学校教育課で、3 ページ、2 (3) 体力、運動能力の向上。継続になっています。岐阜県を見るとわりと低いところにあります。勉強をするにも体力が要ります。継続ではありますが、見直して強化していかないと、追いついていけないのではないかと心配しています。どうでしょうか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 中津川市の子どもたちの体力、運動能力は、委員のおっしゃるとおり、岐阜県の平均レベルが全国よりやや低いと同様に低い状況です。だからといって体力の向上に特化した何かを行うというよりは、県が行っている、県の小学生を対象にしたみんなで縄跳びで結果を出し合って、大会ではないですが結果だけ報告する形で、学級ごとで縄跳びに取り組もうであるとか、外遊びに取り組もうといったことに各校に参加していただきながら遊びの中でさらに向上を図っていきたい。他市では運動、近隣の市でもありますが運動に特化した指定を行って、業間体育、つまり休み時間を体力の向上の運動に当てたりとか、そういった市や学校もあります

が、そのようなことに特化して子どもたちの自由な時間を奪うのではなく、遊びの中で、またはそういった生活の中から体力が向上できるようなこと、また体育学習の充実ということで、その授業内で向上できるようにしていきたいと思っています。市内の小学校の体育の教員も、たとえば跳び箱の授業の初めであっても、その準備運動段階でさまざまな運動を経験させ、十分な活動量を保ちながら、45 分間の体育の授業の充実を図ることで向上を図れないかというふうに取り組んでくれておりますので、そういった学習や生活の中での向上を目指したいと考えております。

■教育長 田島委員。

■田島委員 ありがとうございます。学習の中で特に運動を奨励していくというのは大変難しそうなのですが、今中津川市で推進している 8 万人のヘルスアップは、学校には浸透しないような気がするんです。私も今日西小学校に行ったのですが、西小学校に 8 万人のヘルスアップのポスターが貼ってはあります。で、子どもたちに聞いたりしました。その中で、反応はあまりないということです。これは学校が一生懸命頑張っても仕方がないことで、担っている課がそこへ入って行ってそこでヒントをあげたり、とにかく中津川市はあれだけのポスターを使ってあれだけのお金を使ってやっているんですから、まず浸透させてもらわないといけない。そこは、学力向上にも使えるんじゃないかと思うのです。ですから、その辺のところも投げかけて引っ張るようなことをやっていってもいいんじゃないかと思うのですが、いかがでしょうか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 8 万人のヘルスアップに関しましては、けんばち君のマークだけが給食のメニューに貼られている。子どもたちにとっては給食のメニューの一部かなと思ってしまうかもしれません。一応けんばちメニューという形で、噛むとか、健康にいいメニューのときはけんばちメニューとして、8 のつく日はけんばちメニューという形で学校では紹介しています。給食だけでなく、運動の側面でもピールしていきたいと思いますし、子どもが理解することが保護者に伝わっていく大きな手立てだと考えています。30 年度は健康福祉部もかなり力を入れてウォーキングなどアプリの契約をして市民に呼びかけていくということも行いますので、それに学校教育も協力していきたいと思っています。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

小栗委員。

■小栗委員 市費で雇う、サポートに入っていた方たちは、平成 29 年度と比べて人数的な増減はどうですか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 基本的には増減はありません。本年度は坂本中学校と第一中学校で市独自の 35 人学級、中学校 2、3 年生の 35 人学級を市単独で実施した関係で、授業を行う特別指導助手の配置を 2 名行いましたが、30 年度は坂本中学校だけが実施しますので、その特別指導助手が 1 名減になります。あとは、予算は確保してあるのですが、人が見つかるか見つからないかということが大きく左右すると思っています。

■小栗委員 昨年、名前がよく分かりませんが各学校で集まって何とかオリンピックってやりませんでしたか？ 市内でオリンピック。あれは 30 年度はやらないのでしょうか。

■教育次長 スクラップしました。大変効果があるというか、出場した子どもたちはいきいきと頑張っていましたし、スタンドで声援する児童、声援を受ける児童の呼応もほほえましく心温まるものでした。どの学校の子どもであっても、最後に走るランナーに大きな拍手、声援を送ったりと、本当にいい交流の機会だと思ったわけですが、19 校まで拡大していくことが困難であること、さらにその大会を運営していくに当たり、中学校からも教員を動員しなければならないぐらい人手がかかること、バス代が高騰していること、といった費用対効果を考えたときに、その効果はほかのものに期待した方がいいという判断の下、スクラップさせていただきました。

■教育長 小栗委員。

■小栗委員 費用が大変かかるからかなという推測はしていました。今小木曾次長からも話があったように、参加する子どもたちにとってみるとすごくいい機会だと思うんです。自分たちの学校をみんなで応援し合う、またそういう 19 校の子どもたちが交流する場もないということで、そういうことは私も何となく分かりながら、それにかかる費用も相当大きいんだろうというのも察するわけです。しかし、何かしらの形で、一度やってすごく良かったということで、そういう結果も出ていると思うので、来年度ということではなくこの先何か機会があれば、19 校まで広げると大変かもしれませんが、いくつかエリアを分けるとか、そういう形でもやっていると面白いんじゃないかと思えますので、今後そんなこともやっていただきたいと思っています。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 小学校、中学校とも、過去には、他市で言うと合唱交流会、陸上の大会などさまざまな形で学校が集まって交流会、もしくは発表会を実施していましたが、授業時数の確保といった観点や、教員の負担感であったり、行事のために授業を使ってその練習をとったもので本来行うべき授業が薄くなってしまうと

いったようなさまざまな理由から、各市そういった行事をスクラップしている状況です。ただ、他市が行わないから行わないという考え方ではなく、効果があるものについてはぜひ行っていきたいと考えますので、またそういった道を模索していきたいと考えています。

■教育長 林委員。

■林委員 今のことですが、たとえばオリンピックだと4年ごとなので4年先を目指すけど、小中だと、中学校3年間の中で何年生かのとき1回でもそういう機会があるというのは、結構いい経験になるかなと思うのです。予算のこともあり、毎年は難しいけれど、中学校のことを考えると、3年ごとにやるとか決めて、子どもに機会を1度でも与えるというのに期待したいです。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 ご意見を参考にさせていただきまた考えたいと思います。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 意見です。私は教育というものには、容器と同じように、ある程度までしかできないという容量があると思うんです。たとえばそれが時間であったり先生であったりお金であったり。あれもやろう、これもやろう、あれもやったらいい、これもやったらいい、そういうことをやり出したら、いいと言われるものはいくらでもあるんです。が、教育に関して、子どもたちにかかる負担、先生にかかる負担、働き方改革の中でも教員のことなどすべてをひっくるめて、中津川市の子をどう育てるといふ容器を考えたとき、非常に、これを見せていただいて、バランスが取れていると思うのです。だから、こういうバランスが大事で、一つだけを、これが良かったからあれをやろうとか、そういうところへ先に行ってしまうと、二兎を追うものは一兎をも得ずという感じになってしまうので、切れるものはどんどん切っていく。私はそれでいいと思います。陸上交流会、ああいうのを切っていきたい。経験上、やはり、子どもに今何がということを見たときに、切れるものは切るという感じでいいと思います。

■教育長 ほかにいかがですか。

田島委員。

■田島委員 4 ページのふるさと学習の推進。よく六斎市に行くと、西小学校の子どもたちがお客さんをつかまえてあのあたりのことを説明してくださったり、一生懸命勉強しておられます。それで、中津川には苗木城と中山道が通っていて、宿場が3つあります。中津川、落合宿、馬籠宿と。で苗木城がある。それぞれのある学校が自分のところの落合宿について、馬籠宿についてとかいうのを多分やっておみえだと思えます。連携を取ったらもっと面白いんじゃないかと思えます。

それと、中山道と苗木城がどうしてもつながっていないような気がします。観光でも。せつかくの中津川市の財産なのに、おらが苗木城、おらが中山道という、その感覚なので、それを小学校の時代からつなげていって、もっと面白くしていける気がします、いかがでしょうか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 おっしゃるとおり、たとえば苗木中学校では苗木城のピーアールのパンフレットを学校で作られて、宿泊研修に行く愛知県で配ってきたり、またはホームページにアップしたりしていたり、それぞれの学校でそれぞれの努力をしておられます。見ていて大変楽しいと思いますし、さらに工夫、改善していく点は多々あると思います。ただそれを横につなげるのは非常に難しいかなと正直思っています。たとえば広島へ修学旅行で行っている学校の平和教育、長崎に行っている学校の平和教育、では平和教育で連携し合いましょうというようなことを過去に画策したこともあります、なかなか難しく、時間も手間もかかると思いますし、子ども同士がお互いにやりとりをしなければ意味がないので、合同の学習会を開いたり合同で発表会を開くというアイデアも過去には出したり企画をしたんですが、実現ができませんでした。今ネットの社会なので、ネットを通じた交流や、お互いにホームページで交流し合うといった手間のない方法で探っていけたらいいと思っておりますので、そんな指導も行っていきたいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 まさにそうですね。ネットを通じて、会わなくても情報交換。情報交換しているうちに、会ってみようかということも起きてくる。それは子どもたちが自発的にやってくれるということで、投げかけるというのがとても大事ですので、たくさんの資料を投げかけてあげて、そこで子どもがしっかりとキャッチして、行動が起こせる後押しをしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

■教育長 小栗委員。

■小栗委員 意見です。先ほど教育研修所の西尾所長から、強めに推していきますというその言葉に期待するところなんですが、(5) 学力向上を支える 3 つの施策のところ、継続することとマンネリ化になるということの裏腹があると思うんです。非常に、継続してきて、それが定着しているという部分と、なかなかそこから脱しきれない、発展していかないというところがあると思います。特に、学力アッププログラムなどで言うと、本来はこれをやってそれが定着する、家庭でもその 1 週間なりやったことが引き続きそのプログラムを続けていけるという、そういうところに多分もっていくものなのだろうと思うのですが、なかなか、そのときだけ、いわゆる、やらされ感的なものが、マンネリ化によって、そういったこと

が起きてきているんじゃないかなと思います。なので、どうやってもっていくかという、特に今どうこうといえるものがないんですけど、目指すところをしっかりと見据えながら、新たな施策というか、アクションを起こしていくということが大切だと思うのです。なので、説明をするところからかもしれませんが、今までの学力アッププログラムをさらに進めていってもらえるような働きかけや、プログラム表の見直しとか、そんなのに取り組んでもらえると、強く推すというところにつながっていくんじゃないかなと思います。期待したいと思います。

■教育長 西尾教育研修所長。

■教育研修所長 ありがとうございます。学力アッププログラムについては、最初は、市が施策だからやらなくちゃいけないといったベクトルからスタートして、次は学校が言うからやらなくちゃいけないになっていって、今たとえば今年度の第一中学校のPTAさんのように、PTA活動として学力アッププログラムをPTAが主体となってやるといったような動きがやっとなってきています。そのことを考えると、その単Pがどのようにこのことについて取り組んだのかといったようなことを広めていくということもありますし、あと、学力アップシートにも、たとえば中学生で言えば、やはり情報モラルのことや、時間の使い方といったところで、そういったこともかかわってきているところがあるので、また見直しをしたりして進めていきたいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 6 ページ (ウ) 幼保小の連携推進事業で、とてもこれは浸透ってきて、保育園の先生方も、学校の先生とお話ができるとか、現状を伝えることができるということで、非常に喜んでおみえです。ところが、幼保の先生は小中学校の先生に、今みている子どもたちのことを一生懸命に伝えることができるようになったことはうれしいんですけど、受け入れる方がどういう受け入れ方をするか。ここの熱というのはどういうものなんでしょうか。熱の違いがあるんでしょうか。

■教育長 西尾教育研修所長。

■教育研修所長 そのところは私たちもひとつ克服していかなければいけないと考えているところです。学校によっては小学校 1 年生の担任の先生が、保育園や幼稚園に出向いたり、幼稚園や保育園のときの先生を 1 年生の授業参観に招いたりしながら子どもの成長をみてもらったりというようにつながっているところもありますし、そうでないところもあります。今ここのところにアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを一体化したジョイントカリキュラムの実施というのをちょっと考えて書いたのですが、園が頑張っって入学までに作っているアプローチカリキュラムは全部の園がきちんと整備してやってくださるようになりました。そし

て、学校の 1 学期の間のスタートカリキュラムも整備されています。でも、それだけではきちんとやっても、そのところがより一層スムーズに子どもたちが接続するためには、やはりここをきちんと結び付けて、ジョイントカリキュラムという形にしてやっていかなきゃいけないということを来年度実施したいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 それで意味が分かりました。保育園の研修発表の時に小学校の先生がポソッと話をされたことがあります。それは、小学校の先生と幼保の先生では、子どもたちのトイレについての考え方がものすごく違うそうです。そのことを、その小学校の先生は、「あ、こんなに違うのか」とつぶやかれたんです。すごく大事なことですよね。それが、小学校の先生が幼保のことをより理解してくれるともっとスムーズに行きます。

もう一つ、幼保が一番上になって小学校 1 年生になります。小学校 1 年生に入てできないのではなく、幼保で一番上にいたからできることがたくさんあるんです。それを小学校 1 年生の先生が見くびっている部分があつて、せっかくここまで伸びたものがまた一からトレーニングのような形になっていくと、子どもの自信がそがれてしまうんじゃないかと思う節がたまたまあります。確かにジョイントと考えられたのは、発展的で、ちゃんと着目してくださっていると思い、すごいなと思います。

もう一つ、幼保から小学校というのはこれだけのプロジェクトになっているんですが、小学校から中学校、中一ギャップのことについては、7 ページ (イ) の一番最後に書いてあるだけで、中一ギャップのケアがあまり取り上げられてないような気がします。小学校へ行くときの子どもたちの具合と、小学校から中学校へ行く思春期間近のときの子どもたちの具合は、そちらの方がとてもダメージが大きいような気がするのですが、中一になるための小中連携はどうなっていますか。

■林委員 その辺の情報の共有と、送り出す側の責任感と、受け取る側の、じゃあ子どもさんたちを大事に受け取りますという気持ちが、より深く持てるといいかなと思います。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 田島委員の話とも合わせてですが、小中連携で、小学校から中学校への引き継ぎはずいぶん時間をかけて個別に行っています。以前は一斉にやっていたり、短時間で済ませていることもあったかもしれませんが、今は個人情報ということで引き継ぎも難しい部分もあるかもしれませんが、一人一人について丁寧な引き継ぎを行ったりしています。地区に 1 小学校 1 中学校といった学校では人間関係がほぼ変化なく上がっていつてしまうので、日頃からの小中の連携はできているかと

思います。ですが、市内を中心に、複数の小学校から1校の中学校に上がってくる場合などは、人間関係のこともありますので、引き継ぎの中で、特にサポートが必要なお子さんについては、人間関係を重視を取り入れた、この子のサポートにはこの子をつけてあげた方がいいだろうという配慮も行いながら学級編成をしたり、または小学校区、たとえば中津一中では多くは西小学校、そして東と南が少ないといったことで、では東も南も同様に3学級に分けてしまった場合、顔見知りクラスに数名しかいないという状況を避けるために、なるべく1年生では固めて、2年生以降は徐々に広げていくという配慮や、中一ギャップを起こさないための初期のステップを緩くするような配慮は各学校は行っているところです。中津川市においてもやはり中一ギャップはありますし不登校生徒もおりますが、他市に比べると新規の出現率は比較的低い方になっています。これは、不登校の危険性を持った子どもたちの調査を中津川市ではかけています。他市では不登校になった子どもたちの調査はしますが、中津川ではなりそうな子どもたちの調査をしては、事前にか、初期の手当を必ずする形で学校に動いていただいていますので、出現率は比較的よく収まっています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 非常に上手に進めていらっしゃるという自信の証がこの1行ですね。ありがとうございます。

■教育長 田島委員。

■田島委員 西尾所長の毎回のご発言を聞いておりますと、今日も小栗委員が指摘された、強めに押すということが本当に、私たちの心も打ちます。ということは、各学校に行き行って非常に一生懸命に旗を振るっていらっしゃるということですね。すごく基本的なことを伺います。私の中で一応解決はできているんですが、生き抜く力というものを育むために学力を高めていく、点数と生き抜く力の相互関係、どう結び付けるのか。点数を上げていくことが生き抜く力にどう結びついていくかの持論をいただきたいと思います。

■教育長 西尾教育研修所長。

■教育研修所長 私は、生き抜く力は、大きなくくりで言うと、学力と社会性だと思っています。その学力と言ってもとても幅広く、中津川市の子どもたちを見ても、得点だけではなくやはり学習の意欲や、足りないと言っている読解力、持久力といったものも必要だと思います。ただ、ここ数年、私は学校で授業の指導をするときに、子どもたちの関心、意欲といったところに焦点を当てて指導してきたところがあります。子どもたちが関心、意欲を高めて、自分から学びたい、分かりたい、そういった意欲をもって授業を行っていくことによって、分かった、できた、

もっとやりたいという力強い子どもたちの学力を獲得したいと思う力、そういったものが何よりも大事だと思っています。それを獲得していくにつれて、得点力は上がってくると思っています。そうやって培われた学力と人間関係も含めた社会性といったものを子どもたちが見につけて、よりよい一人立ちの力となって社会で生き抜いていくという土台作りが、小学校、中学校できちんとできることが何よりも大事だと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 ありがとうございます。生きる気力というものを向上させていく、納得させていただきました。それだけ、たとえば西尾所長は、自分に百回訪問というのも課していらっしゃって、本当に子どもたちのために生きる気力を引きずり出す、どうしたら引きずり出せるか。あと、そのために、教員をまた指導していくということも、そして何が要るか、環境も整えなければいけない、あらゆることに対して、中津川の子どものために努力をしてくださいました。その努力は西尾所長だけではだめで、これから一緒に行動した方々に伝えていっていただき広げていっていただかなければならないと切に思います。その辺はこれからどんなふうに思いを皆さんに伝えていってくださるのでしょうか。

■教育長 西尾教育研修所長。

■教育研修所長 決して私一人が頑張ってきたとは思っておりません。学校教育課、研修所でみんなで学校を指導してきたと思っておりますが、ただ、中津川市の子どものためにといった大事にしている柱のことを考えると、そのことを、施策を考える上でまたやっていく上で、何が子どものためになるのかといったその一点を忘れないようにしてやっていこうということを、来年度、再来年度、ずっと引き続いて考えていくと、ぶれずにやっていけると思っています。

■教育長 たくさんご意見をいただきました。ここで休憩にします。

[ 休 憩 ]

■教育長 再開します。幼児教育課から。丹羽幼児教育課長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ご意見ご質問を受けたいと思います。

田島委員。

■田島委員 幼児教育課に質問します。8 ページ（オ）運営管理・安全管理（継

続)。法人保育園、幼稚園の安全管理と公立との違いがとても大きいような気がします。法人も2つ3つ鍵がないと一般の方が入れないようになっています。反対に、加子母保育園は柵はあってもまたいで入れる。西幼稚園はやすやすと教室まで入れます。暴漢が来たら怖いと思います。基準はありますか。違いがあることに対してどうお考えですか。

■教育長 丹羽幼児教育課長。

■幼児教育課長 ご指摘の通り、公立の園は非常にセキュリティーが低いです。かといって、一度にセキュリティーを上げるのはなかなか難しいところがあり、順次整備していけるところからセキュリティーの強化を行っていきたいと考えています。まず坂本のこども園にしっかりしたセキュリティーを入れ、そこから学べるものをほかの園にフィードバックできたらと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 やはり危機感をもっておられるということで。ありがとうございます。

■教育長 そのほかいかがでしょうか。

田島委員。

■田島委員 10 ページ、子育て政策室、(10) 市民や保護者、教職員や保育士向けの講演会や研修会の開催とあります。子どもたちにはどんなふうに対応しているのでしょうか。

■教育長 足立子育て政策室長。

■子育て政策室長 ここについては子どもたちは対象になっていません。保護者、大人で、現場の人で、29 年度では放課後児童クラブの支援員にもお声掛けして出席していただくようにしています。子どもさんの直接のかかわりはありません。

■田島委員 ちょっとニュアンスが違うのかもしれないのですが、放課後支援員や大人が発達障がい理解はもちろんのこと、子どもたちも理解しないと、恵北地区のどんぐりへ行ったときに、いじめの一つの形になってしまっている例を聞いたことがあります。子どもたちにも理解をしながら進めていかないと、いじめや仲間はずれというものは解消していけないし、反対にその子どもたちが大きくなってそれで福祉のまち、みんな平等なまちをつくっていかねばいけないと思うんです。子どもたちにはこういうこと理解促進は難しいのでしょうか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 委員のおっしゃる通り、啓発活動は大変重要な意味を持っていると思います。ただ、現状でいくと、保護者が理解していないところに、子どもたちだけに対して理解啓発は非常に難しいと考えています。学級によっては対象児童生徒がいることによって、本人が親から告知されていて、その告知されている子ども自身

が学級の仲間に告知して理解してもらおうといったケースもあります。ですが、非常にまれなケースだと思います。本人が告知されていない、または、学級の仲間も昔からこういう子だという理解の中で、そういった学習、理解、啓発活動をする事によってかえっていじめをもたらす場合もあり得るということで、理解啓発活動はすべきだと思っていますが、ケース・バイ・ケースというか、状況に応じてだと思います。今後そういう研究を行いながら、児童生徒について我々も研究していかなければいけないと思っています。

■教育長 足立子育て支援室長。

■子育て支援室長 たとえば子どもさんを対象に知りたいことで心理士を派遣してお話をするというご依頼があれば、実施はしてみたいとは思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 この中には杉の子幼稚園の何周年記念で、車いすの苗木出身の方が講演してくださったのを聴いた方もおられると思います。あの方はもう杉の子幼稚園に入るときからそういう障害があって、クラスはみんな認めて、かばうことをクラスの子どもたちが覚えたという話をしてみえました。ケース・バイ・ケースとおっしゃいましたが、優しい心づかいができる子どもたちになってほしいので、できるだけ現実を上手に伝えながら育てていっていただきたいと思っています。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 学校では人権学習等の中で障がい者の方や、最近では認知症のご老人の方への差別がないように、またはどう接したらいいかといった学習も、人権学習の一つの中で行っています。それ以外にも外国人や男女の平等、多くある世の中の差別問題にして学習をしておりますが、現状で言うと、発達障がいをもっているから大きく差別されているとかいじめにあっているという、明確な差別になっていないので、それを特化して取り上げることによって、逆の差別が起こり得るという危険性を十分考えながら、遅々とはありますが、その必要性はもちろん感じておりながら、進めていかざるを得ないことで、実際に多くなってきていますし、これが原因でトラブルが起きているのも事実です。でも百パーセント起きているわけではないといったところが、非常に難しく、我々もやりなさいと言いきれない、踏み切れないところがありますので、先進的な取り組みをしているところにぜひ見習っていきたいと思います。

■教育長 ほかによろしいですか。

では、次に進みます。阿木高等学校林事務長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ご意見ご質問ありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 地域に密着した農作物とか、地域の連携、将来地域を担う人材とか、地域社会とか、地域という言葉がたくさん登場するんですが、この地域というのは具体的にどこのことでしょうか。

■教育長 林阿木高校事務長。

■阿木高校事務長 基本的には阿木地域をベースとして考えて、中津川市全体に広げていければいいと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 教育長は阿木の出身なので、阿木のいいところをお伝えしますと、本当に何でも受け入れてくれるところだと思うんです。たとえば、非常に変わった性格の子でもそれをしっかりと受け入れて認めて、みんな手をつないで進んでいけるところが阿木のような気がします。昔少年の主張で阿木の子がカミングアウトしてくれたことを聞いたことがあります。僕は男じゃなくて女がいいと。ずっと女がよくて、女になりたいと思っていた。で、阿木の地域の人たちは彼が女性っぽいところを全部認めていた。なので、非常に阿木は心地よく暮らせていた。ところが、研修に外に行ったら、お前男らしくないじゃないかと一喝されてものすごくショックだったと。阿木の住人は全部認めてくれたから非常に心地よくて、そんな世界があると思わなくて研修に行って一喝されて帰ってきた。阿木っていいところなんだと思いました。これが阿木高の、地域というのが阿木限定になってしまうと、やはりとても温かくて、容認して下さるところで、非常に心地いいところですけど、実は阿木だけで生活するわけではなく、これから中津川市、名古屋へ、東京へと飛び出していく子どもたちだと思うので、その辺のリードを上手に、地域というものを上手に使って知らせていかないとまずいのではないかと思います。

■教育長 ほかにご意見、ご質問ありましたらお願いします。なければ次へ行きます。生涯スポーツについて、糸魚川生涯学習スポーツ課長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ご意見等ありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 生涯学習スポーツ課は、ものすごくたくさんのイベントを今年も予定されているということで、成人式に出させていただいて本当に整然とスムーズに進

めていかれた。これは代表の成人の人たちの力もありますが、やはり統括している皆さんのお力だと思います。大変すばらしかったと思っております。ところで、生涯学習スポーツ課がイベントをたくさんやられるわけというか、イベントをたくさんやればイベント課というのを作って、イベントというものを充実してスムーズにやっていくというセクションがあってもいいと思うんです。イベントをやるだけなら。でも、このイベントの向こうに何があるか、何を期待しているかということで生涯学習スポーツ課がイベントをやるということだと思いますので、その向こうにあるもの、生涯学習スポーツ課がイベントに託するものという思いを教えてくださいたいんです。

■教育長 糸魚川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 大変難しいご質問です。生涯学習スポーツ課の範囲が大変広く、過去には生涯学習課とスポーツ課がそれぞれあったという経緯もあるのですが、今はそれが一つになってイベントを受け持っているというところがあります。スポーツに関しては分かりやすいと思います。見えるところは健康であり皆さんの楽しみであり、そういったものが参加の皆さんに伝えられるというところで各種イベントの開催なんです。この裏には、私どもが実際に企画して実施するだけではなく、担当する団体さんそれぞれ、たとえば一番多いものでは体育協会が、各種競技に対するイベントなどを開催するんですが、今はちょっと変わってきて、レクリエーション的なイベントになりつつある。競技団体がやっている競技でも、一番今感じられるのはリレーマラソンが一番分かりやすいと思うんですが、本来であれば陸上競技なんです。あれは走る楽しみや絆、同級生の連携、地域の連携といったものを一つに合わせたイベントとして計画していただいて実施しているわけです。本当にあの競技については、中津川市の一大イベントとして、地域の絆、仲間の絆、職場の絆といったものを引き出していただく大変いいイベントです。

■教育長 田島委員。

■田島委員 やっておられる方々は本当に大変なイベントだと思うんですが、生涯学習スポーツ課がやらなければいけないというところは、今おっしゃった中にもあったと思います。絆とか。やはりこれは市民サービスの一つの人づくりだと思うんです。いろいろなイベントが人づくりのアイテムだというふうに生涯学習スポーツ課の方々は、理念をもって、それでイベントを進めていかない限り、イベント課というのがあった方がいいような気がします。

生涯学習スポーツ課、もしくは文化スポーツ部、前にも言ったんですが、中津川市のいろいろな部の中で人を育成していくところは2つあります。一つは教育委員会で、教育委員会が子どもたちをよりよい一人立ちのためにということで、大きな

指針、目標をもって進めておられます。多分、教育委員会の方々は、何のためにやっているのと聞かれると言えらると思います。自分が何のために仕事をしているということが、多分目標があると思います。それで、せつかく人づくり、子ども以外に、市民の方々に対するサービスの一つですよね。もちろん中津川市をつくっていく、はては国をつくっていくという土台を作っていく、そういう一番選ばれた課だと私は思うんです。これは非常にすばらしい課であってやりがいのある部署だと思います。なので、もう一回何のためにイベントをやるか、公民館、各種講座、本当に幅広くやってみえる、誰のためにやっているのか、誰をどうしようかと思ってやっているのかということ、一人一人が自覚して、そこに向かってやっていくという姿勢を取り戻していただきたいんです。三尾委員は社会教育委員をやっておみえです。私も社会教育委員を長い間やらせていただいて、その当時、十数年前は、公民館館長ないしそれに従事している方々は、自分がこれをやる、こうして問題解決をしていくという、何かミッションが感じられていたような気がします。温故知新はやはり大事です。言葉がずっと伝わっているということは、古いものを見ながら、その当時はどうやっていたか、それがどこに結びついていく、人づくりに結びついていく、どんなふうにはやっていたのか、もう一度検証していただくと、もっと活性化した部になると思いますので、ちょっと心配です。もちろんすごく頑張ってみるところもあります。それは、図書館は民間の館長が自由な発想で4年半ぐらいやっておみえで、その後継いだ市職員の館長さんは、落とすことなく、死に物狂いでやっておみえだと思います。それはすごく伝わってきます。ですからそういう熱いものをいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

■教育長 大巾文化スポーツ部長。

■文化スポーツ部長 文化スポーツ部としても人づくりを一番の目標として掲げて、当初の年度目標の中でもうたっているわけですが、再度認識させていただき、今後の事業の展開に向けて、さらにもう一度見直しをして努力して今言われた目的達成のために事業を展開していきたいと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 もう一つ、合併のときに、教育委員会にあった文化スポーツ部が分かれてきました。市長部局に行ってしまった。その理由をご存じの方がこの中におられるのかという状態になっています。文化スポーツ部がそちらに行ってしまった一つの理由が、人づくりをするために各課と連携しながらやらなければいけないので、教育委員会の中にいたら各課との連携が取りにくいから独立して市長部局に行ったらそこで各課との連携が取りやすいという理由も一つあったと聞いています。確かに各課との連携は身軽で取りやすいと思いますが、反対に、教育委員会との連携が取

りにくくなっている部分は感じられないでしょうか。

■教育長 早川事務局長。

■事務局長 合併のときの状況を知る者がかなり少なくなっており、こういう形で10年以上来ていますので、この形に改めて疑問を持たずにやってきています。ただ、ほかの団体などを見ても、文化スポーツ部門が市長部局に移管される場所も見受けられます。それにはそれぞれの理由もあったことかと思いますが、各課と連携というのは非常に大事な部分です。こういう状況に慣れているので特段連携が悪いという状況も自覚していなくて申し訳ないですが、もっと連携を取らなければいけないということを改めて認識しながらやっていきたいと思ったところです。どこの課も連携を取ることが重要ですし、連携に努めてきている状況だと思っています。

■教育長 そのほかよろしいでしょうか。

小栗委員。

■小栗委員 質問です。生涯学習スポーツ課の基本施策1の2(1)ウォーキング・ジョギングコースの設定(継続)は、平成30年度はどんなことをやられるのでしょうか。

■教育長 糸魚川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 一番の大きな目標は中津川市内全域にウォーキングコース、ジョギングコースを身近でできる、こつこつできるコースをとるところが基本で、それはスポーツ推進計画の中から来ている計画でもあります。平成30年度の計画も、4地区予定しています。今回29年度で、今まだ実施中ですが、川上、付知、落合、阿木で計画中です。これが終わった段階で平成30年度も同じように、まだ地区は決定しておりませんが、4地区を、地域の希望を取りながらコースを設定していただく計画です。

■教育長 ほかにありますか。ないようですので次に行きます。文化振興課、川合文化振興課長。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■教育長 ご意見等ありましたらお願いします。

では、全体を通してご意見、ご質問ありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 教育委員会の方々は、なっってほしい子どもの姿を描いてそこに向かって進んでいる。それが一人一人、多分全員が自覚して、何のために動いているかということが明確に口に出して答えることができると思います。やはり市の職員とし

て、市民サービスをしていくということが全くの前提で皆さんはお仕事をなさっておられると思います。それに市民が頼って中津川市で生きていますので、市民が置き去りになってしまう、ないし、市民が、私たちの進む方向はどうしたらいいのか、そういうことにならないように、自分たちがどうして中津川市をつくっていくのかということなどを常に考えながら、それともう一つ、この仕事は誰のためにやっているのだろう、たとえば子どもたちのためにやっている、というふうにやっても、ひょっとして掘り下げていったら自分のため、自分の都合でやっているのではないかというふうにしち止まって考えながら仕事をしていただける一年であるといいなと私は思います。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 感想ですが、今日手元に事前に資料をいただいて、ずっと説明をいただいたわけですが、本当に、人生百年の時代を迎えつつあるんですが、人生がずっと教育であるということ、この資料を見せていただきながら感じました。本当に生まれ出るところから年老いて命尽きるまで、中津川市はこうして教育を行っているという感じを強く受けました。ありがとうございました。こういったのを、私も見る機会があったんですが、市民の方は教育委員会やいろいろな課のかかわり合いなどはあまりご存じないかもしれませんので、分かりやすいパンフレット等でこれからも伝えていっていただくと有り難いと思います。ご準備ありがとうございました。

■教育長 そのほかご質問、ご意見等ありますか。

ないようでしたら、議第 3 号「平成 30 年度中津川市教育委員会主要事業については」承認ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。委員の皆さんから貴重な意見、アドバイスもいただきました。ご質問いただく中で、私たち事務局が気づかないことも深めることができましたと思います。来年度の事業実施に当たってまた心して進みたいと思います。ありがとうございました。

これで本日の議事は終了しました。次回の開催日程についてお願いします。末木事務局次長。

■事務局次長 次回は 2 月 20 日火曜日 13 時 30 分から、にぎわいプラザ 4-1 会議室で行います。よろしくお願いします。

■教育長 次回は 2 月 20 日火曜日 13 時 30 分からです。よろしくお願いします。

以上で平成 30 年第 1 回中津川市教育委員会を終了といたします。お疲れ様でした。

[ 閉 会 (午後 4 時 2 4 分)